

令和元年度 学校経営計画に対する最終評価報告書

石川県立七尾特別支援学校輪島分校

重点目標	具体的取り組み	評価の観点	実現状況の達成度 判断基準	期末結果	分析（成果と課題）及び 次年度への提言	
1	キャリア発達を促す授業力の向上	① ・児童生徒が学んだことを生活や社会で生きて働く力となるための算数・数学の授業改善を行う。指導内容、方法について学部全体で共通理解し、他教科等との関連を図る。	〔達成指標〕 算数・数学の授業担当者全員が授業研究を各で行う。（各自1回1点：小5回、中2回、高3回） 各学部で他教科等との関連を図式化する。（各学部1点）	合計点（満点は13点）で A：100% B：90%以上 C：80%以上 D：80%未満	授業研究は小学部で5/5、中学部で2/2、高等部で2/3であった。他教科との関連図は各学部図式化することができた。（3/3） 合計12点 【92%でB】	部研究や要請訪問を通して各学部で算数・数学の授業改善が行われてきている。しかし、まだ授業の質の向上は道半ばなので、今後も授業改善を行う予定である。各学部ごとの他教科との関連図は、複雑になりすぎたので、次年度以降簡略化して見やすいものにし、授業に活かしていきたい。
		② ・夏季休業中にアセスメント研修会を実施し、採点や集計、結果の解釈の仕方について演習を行う。児童生徒に実施した検査結果を学部内で共有し、指導に活かす。	〔成果指標〕 アセスメントの実施の程度で評価（アンケートを実施） 3：アセスメント結果を指導に活かした 2：アセスメントを実施した 1：アセスメント研修会に参加した	評価の合計点が A：45点以上 B：35点以上 C：25点以上 D：25点未満	研修会参加が22名（22点）。アセスメント実施者は2名（4点）。昨年度の残りを含め結果を部で共有し指導に活かしたのが3名（9点）。 【合計35点でB】	研修会参加者は多かったと感じているが、アセスメント実施対象者が少なく、転校や不登校で実施が難しかった。WISC-Ⅲは数年後には用紙も廃版になるので、次年度はセンターの指導主事をお願いしてWISC-Ⅳの研修会を実施したいと考えている。
学校関係者評価委員会の評価		算数・数学と他教科の関連の図式化は、大変良い着眼点である。算数・数学を生活の中に取り入れていくという方向性が明確である。高等部の図式化したマップが見づらい。作成したマップを授業の中で活かしていくという意識を高め、授業改善に取り組んでほしい。				
学校関係者評価委員会の評価を踏まえた今後の改善策		今年度は、社会で生きる力の算数・数学の授業改善に取り組んだ。他教科との関連についても教員の意識が高まった。来年度は、教科のねらいを明らかにし、学校生活の中で獲得していく力（社会に生きる力）の共通認識を図り、地域社会と学校とフレキシブルな授業展開を実施していきたい。				
2	地域とのつながり	① ・進路支援課が企画し、各学部で地域交流を行ってもらう。学校の取り組みや子どもたちについて知ってもらう機会とする。	〔成果指標〕 交流先にアンケートを実施し、交流の充実度を評価してもらう。 A：とても充実した交流ができた B：充実した交流ができた C：あまり充実した交流ができなかった アンケートの結果を次回の交流に活かす。自由記述欄を設け、評価とともに地域のニーズを知る。	アンケートを実施した結果 A：A評価が100% B：A評価とB評価の割合が90%以上 C：A評価とB評価の割合が80%以上 D：A評価とB評価の割合が80%未満	アンケート3件回収 A：3件 B：0件 C：0件 【A評価】	支所清掃・公民館清掃などの地域清掃、花壇の整備、門松配布などでとても充実した交流ができたという評価をいただいた。老人ホーム慰問が流行性感冒のため中止となったため、交流の時期は次年度以降も考えていきたい。また3月に事業所とのスポーツ交流を実施予定であったが、臨時休業により中止となった。今年度はアンケートに自由記述欄を設け、地域の交流のニーズを知ることができた。次年度以降の交流に活かしたい。
		学校関係者評価委員会の評価	2学期後半や3学期はインフルエンザの流行とコロナウイルス感染予防から、交流ができず、回数自体が少なくなったことが残念である。門前市街地に校舎が引っ越しをしてきて3年経つ。地域の皆さんとのふれあいが浸透してきたことを、日常的に感じるようになった。			
学校関係者評価委員会の評価を踏まえた今後の改善策		近隣の学校との実際交流や、地域の福祉事業所や高齢者施設、町会と、一方通行ではない双方向の活動を広げていきたい。オリンピック年でもあり、パラリンピックスポーツを通してふれあいを深め、生涯スポーツへの興味や共生社会の入力となる活動を増やしていきたい。				

重点目標	具体的取り組み	評価の観点	実現状況の達成度 判断基準	期末結果	分析（成果と課題）及び 次年度への提言
3	安心・安全な学校作り ① 教室等の日常点検、月1回の安全点検、年2回の環境衛生検査等を見直し充実させ、児童生徒が安全に、そして健康を保持し安定した学校生活を送れるよう学校環境の整備を行う。	〔達成目標〕 日常点検、安全点検で問題があがってきた箇所を、情報共有し、改善または修繕できたかどうかで評価する。	環境の改善または修繕割合が A：80%以上 B：70%以上 C：60%以上 D：60%未満	27件中、19件改善又は修繕を行った。 【70.4%でB】	月1回の安全点検表を確認しながら、全職員が点検担当箇所の状態を確認してきた。月を重ねるごとに先生方の安全意識も高くなり充実したものになった。現在、数件の未改善・未修繕があるが来年度に引き継ぎ、早々に改善・修繕できるように、事務と相談しながら学校の環境整備を進めていきたい。
学校関係者評価委員会の評価		教職員の意識が高まり、修繕箇所が具体的に増えてきている。門前高校と同居して3年、互いの活動があり、活動場所が限定される中、事故がないように注意を怠らずに、日常点検を行ってほしい。クーラーが各教室に装備されて、体温調整が難しい子にとっては何よりである。			
学校関係者評価委員会の評価を踏まえた今後の改善策		日常点検や安全点検より、自分たちで修繕可能な箇所・予算化して整備しなくてはならない箇所が見通せるようになった。3年経過し、破損・故障箇所も年々増えてきている。見逃さずに、安全点検で見える化し、注意喚起を行うとともに、修繕要求をしていきたい。			
4	業務改善に向けた意識改革 ① ・会議や研修会の効率的な実施に取り組む。会議の進め方として、事前資料配布・会の目的の明示・進行の視覚化等を行い、業務改善の意識改革に取り組む。また、教職員各自の働き方を振り返り、より効率的な業務の実践に取り組む。	中間と年度末に教員からアンケートを取り、より改善できたかどうか測る。 A：改善された B：まあまあ改善された C：やや改善されなかった D：改善されなかった	アンケート結果 A：AとB合わせて60%以上 B：AとB合わせて50%以上 C：AとBあわせて40%以上 D：AとBあわせて40%未満	アンケート21名分集計 A:29% B:38% C:29% D:5% AとBを合わせて67% 【67%でA】	今年度は、会議を効率的に実施することを意識して取り組んだ。研修会や職員会議など、少しずつ改善が図られている。教職員の働き方の意識も向上している。しかし、職員数の少ない分校では、一人の教職員が複数の業務を担当しているため、負担度が大きく、業務負担の平準化が大きな課題となっている。今年度の問題点をいかし、来年度当初の各課各部の担当する業務のバランスを十分検討していきたい。
学校関係者評価委員会の評価		教職員の意識改革が進んでいると判断できる。昨年度の働き方改善の指標もA評価であった。取組の成果が表れてきたと思われる。一般の小学校・中学校はまだまだ業務改善が進んでいない感がある。学校による違いは何であるか不思議に思う。			
学校関係者評価委員会の評価を踏まえた今後の改善策		各課や学部でのマニュアル化も少しずつ進み、教職員の意識も向上している。児童生徒数が減少することにより、教職員の人数も減ることが予想されるので、各課の担当する人数や業務のバランスを検討し、業務内容の統合など平準化を図っていきたい。			